

# 甲斐市立双葉東小学校 自己評価書

令和 2年 2月 3日 (月) 作成

校長 「内藤 和彦」 記述者 職名 (教頭)「立澤 正二」

学校教育目標 「かしこく やさしく すこやかに」  
(1) 自ら学び 自ら考え 行動する子ども (2) 人を愛し 自然を愛する子ども  
(3) 健康で安全な生活をめざす子ども (4) 困難なこともりこえる子ども

学校経営目標  
(1) 生きる力の育成 ～心の教育の充実を基軸に～  
(2) 学校・家庭・地域の連携協力 ～開かれた学校づくりの推進～  
(3) 教師こそ最大の教育環境 ～職員の資質の向上～

学校経営方針  
(1) すぐれた伝統を尊重し、児童や地域社会の実態を把握し、学校教育目標の具現化に努める。  
(2) 豊かな心の育成に向けて、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育てるために、研究・実践に当たる。  
(3) 確かな学力の定着に向け多様な指導方法を工夫し、日頃の教材研究を十分行い、学ぶ喜び、分かる喜びを味わわせると共に、基礎・基本の確実な定着を図る。  
(4) 体力の向上、健康な身体づくりのために、体育の授業の充実、業間時間の外遊びの推奨、疾病・怪我から身を守る力の育成等を図る。  
(5) 児童集団の中に起こる様々な問題・課題に対して、子ども自らが気づき、解決に向け発言し、集団の向上・発展に向かって立ち上がる指導を通して、集団づくりを行う。  
(6) 不登校やいじめ等児童の課題に対して、担任一人だけの悩みとせず、学年体制、全校体制など組織的な対応のもとに適切な支援・指導を行う。  
(7) 教育課程の編成・実施・評価・改善のシステムを大切にし、それらが相互に働くように努める。  
(8) 学校の施設・設備、地域素材・地域の人材を活用し、幅広い教育活動を展開し、児童の生きる力の育成に努める。  
(9) 児童の安全確保と学校の安全管理の充実を目指して、教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと児童の健康・安全教育を推進する。  
(10) 特別支援学級の経営及び特別な支援を必要とする児童についての共通理解と適切な指導に努める。  
(11) 学校・家庭との信頼関係を大切にしながら、児童の良い点や課題について、共に考え合い・育てるといった基本的な関係を踏まえて、適切に情報交換する。  
(12) 教職員は常に課題意識を持ち、常に前進・向上を求めて研修・実践に努める。  
(13) 教職員が互いに協力して、社会一般からの要請事項に応えられる職場環境作りに努めながら、子どもたちに向き合う教育活動に専念できるようにする。  
(14) 開かれた特色ある学校づくりを推進するために、学校の情報を的確に保護者・地域に発信しつつ、家庭や地域社会との連携や学校評価システムの効果的運用を図り、教育効果を高める。

1 全体評価 ※文章中にある数値は肯定的評価 (A・B) の割合を表しています。

## 【教員自己評価シートより】

- 肯定的評価 (A・B) の平均が 95.9% と高い数値を示している。全教職員よる学校教育目標の具現化に向けた取組が概ねなされているという結果といえよう。
- 次の3つの項目については、さらなる改善項目 (評価が低い項目) とし、改善を図っていきたい。  
「あなたは、危機管理 (防犯, 防災, 事件, 事故等) マニュアルを理解している (87.8%)」  
「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす指導を行っている (88.9%)」

「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている（89.5%）」

【保護者アンケートより】

- 保護者アンケートでは、肯定的評価（A・B）の平均が86.5%と高い評価であった。最も評価が高かった項目は、「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会となっている（98%）」で、「お子さんのことで、相談できる先生がいますか」の質問では、およそ8割の保護者が「いる」と回答しており、学校と保護者との間で良好な関係が築けていることがうかがえる。
- 「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」の項目の肯定的評価は60.1%と最も低くなっている。家庭での読書は、一日あたり「10分より少ない」の数値がいちばん高い。下校後の学習・生活について課題があると考えている保護者が多いのではないかと。

【児童アンケートより】

- 児童アンケートでは、肯定的評価（A・B）の平均が89.5%と高い数値を示している。その中で、「先生はよく勉強を教えてくださいか」という項目においては、98.3%と非常に高い評価であった。授業をとおして児童一人一人に確かな学力を身に付けさせることが学校の最も大きな役割である。学力の定着に向け、職員一人一人が地道に努力を重ねてきた成果である。今後も全職員が日々の研鑽を積み、積極的な児童の実態把握に努め、より一層の学力向上を目指していきたい。
- さらなる改善項目（評価が低い項目）としては、「授業中に質問や意見を言っていますか（67.9%）」が挙げられる。獲得した知識を表現し伝え、活用することでさらに確かなものになっていくので、「確かな学力」を育むために、来年度の重点項目として改善を図っていきたい。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について ○…達成状況 ◆…改善策

達成状況及び改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的評価（A・B）の割合は、99.4%</li> <li>○「学校教育目標」「学校経営目標」「学校経営方針」についての教職員全体の共通理解は図られており、児童への指導も意識的に展開されていた。</li> <li>◆「あなたは、P（Plan 計画）→D（Do 実行）→C（Check 評価）→A（Action 改善）サイクルを生かした教育活動を行っている」の項目については、肯定的評価は高い（97.6%）ものの、Bの割合（47.6%）が大きくなっている。特に行事については、子どもたちにとって意義あるものとなるよう、前例踏襲という形にならないように、反省をしっかりと生かして改善を図っていききたい。</li> </ul>
II 学校運営について	
達成状況及び改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的評価（A・B）の割合は、96.7%と高く、全職員がそれぞれの立場で、負担の大きな部分ではお互いに補いながら、また、お互いに協力しながら学校運営に参画できた結果であろう。</li> <li>◆「あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している」の項目については、肯定的評価の割合が87.8%と、他の項目と比較して低い結果となった。近年想定外の災害や事故・事件が多く発生し、児童の安全の確保は重要な課題となっている。学校は様々な状況を想定し、児童の安全を第一に考えた対応ができなければならない。これまでと同様に危機管理マニュアルがさらに実践的・実際的なものになるよう、その内容を検討し改善を図る必要がある。また、その内容が職員に十分理解されるよう分担や対応を確認したり、より実際的な訓練を行ったりしていきたい。</li> </ul>

<h3>Ⅲ 学習指導について</h3>	
<p>達成状況及び改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的評価（A・B）の割合は、96.7%</li> <li>○だれもが「わかる授業」を目指し、職員一人一人が地道に努力を重ねてきた成果により、基礎学力の定着・向上につながった。</li> <li>○全国学力・学習状況調査の結果では、算数・国語ともに、多くの問題において全国の平均正答率を上回った。しかしながら「目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、まとめて書く」力を問う趣旨の問題は、全国と同様に低く、課題がみられた。</li> <li>○児童アンケートから「授業中に質問や意見を言っていますか」の項目について、肯定的評価の割合が67.9%と低い数値となった。</li> <li>◆今後も教職員の授業力の向上を図り、児童の基礎・基本の確実な定着を図るとともに、「学んだ知識を活用する力」、「自分の考えを表現し、伝える力」を育てるため、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んでいきたい。</li> <li>○保護者アンケートから、「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」の項目の肯定的評価の割合が60.1%と最も低くなっている。</li> <li>◆毎年年度初めに、家庭学習の大切さとポイントを示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付しているが、今後もこの取組を継続するとともに、新たな取組を検討し、児童一人一人の生活面と家庭学習について、学校と家庭が連携して見届け、支援できる体制を探っていききたい。</li> </ul>
<h3>Ⅳ 生徒指導について</h3>	
<p>達成状況及び改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的評価（A・B）の割合は、97.4%</li> <li>○教職員それぞれの努力、家庭・関係機関との連携、また、情報を共有し、全職員共通理解のもと指導にあたることにより、生徒指導上では大きな問題はなく、子どもたちは落ち着いた雰囲気の中で生活ができていると言える。</li> <li>◆「子どもの心を大切にする」をキーワードに、全職員の共通理解を図り、児童一人一人の個に応じたきめ細かな指導の支援を行い、スクールカウンセラーの活用を図るとともに、児童や保護者から相談しやすい体制を築くことを心がける。</li> </ul>
<h3>Ⅴ 地域との連携について</h3>	
<p>達成状況及び改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的評価（A・B）の割合は、95.8%で、地域との連携については、概ね達成できていると言える。</li> <li>○さらなる改善項目として、以下の2つの項目が挙げられる。 「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす指導を行っている（88.9%）」 「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている（89.5%）」</li> <li>◆新たな課題への対応、子どもたちや保護者の多様なニーズに対応するためには、「学校と地域の連携」はなくてはならないものとなっている。今後さらに地域との連携を深めるとともに、地域の人材や学習ボランティアの活用が図られるように努めていきたい。そのために、地域人材や地域素材を活用した教育活動の教育計画への位置づけを一層図り、学習ボランティアについても広く保護者や地域の方々に依頼をし、人材確保に努力したい。</li> <li>◆よりよい教育活動を行うためには保護者や地域住民の意見や要望に誠意をもって対応し信頼関係を構築していく必要がある。何よりも日頃のコミュニケーションを大切にし、情報を発信したり収集したりして相互の信頼関係を築く努力を続けていきたい。</li> </ul>

VI 学校の特色に関して	
達成状況及び改善策	<p>○肯定的評価（A・B）の割合は、99.2%と高い数値を示している。学校の特色として挙げている取組については、概ね達成できていると言える。</p> <p>○あいさつについては、教職員自己評価・保護者アンケート・児童アンケートともに肯定的評価が高いものの、「自分から進んであいさつする」という部分では、まだまだ取組を続けていく必要がある。あいさつは、人と人とのコミュニケーションの基本であるので、どんなときにもあいさつができるよう、様々な場面で指導するとともに、今後も中学校や保護者とも連携したあいさつ運動なども展開していきたい。</p> <p>○保護者アンケートから、児童の家庭での読書は、一日あたり「10分より少ない」の数値がいちばん高くなっている。</p> <p>◆本に触れる機会を増やそうと、保護者・教師による読み聞かせ、教師による本の紹介などの活動に取り組んできた。「本好きになってほしい」という想いは、学校・保護者共通の願いである。学校と家庭とが連携をし、子どもたちの「読みたい」という気持ちを引き出すための工夫を続けていき、家庭での読書習慣の定着へとつなげていきたい。</p>
3	<p>まとめ</p> <p>教職員自己評価では、肯定的評価（A・B）の割合の平均が95.9%と数値が高く、学校教育目標の共通理解が図られ、各学年ともそれに基づいた教育活動を展開することができたと考える。今後も教育活動にPDCAサイクルを取り入れて改善にあたるという意識をさらに高めるとともに、学校・保護者・地域がコミュニケーションを深めて、教育課題に当たっていきたい。</p> <p>この自己評価の項目の一つ一つが教職員に課せられた目標であるという認識を確かなものにして、引き続き豊かな教育活動の推進を図って参りたい。</p>

東小学校の課題

**【職員】**

- ① 危機管理マニュアルの浸透
- ② 道徳の内容・評価の充実
- ③ 地域人材の活用
- ④ 保護者や地域の要望の問取り入れ

**【子ども】**

- ①さらなる学力の向上に向け，自分の考えを表現し，伝える活動の充実  
読書活動の充実

健康的な体を作るためには，

- ① 栄養のバランスのとれた食事
- ② 適度な運動
- ③ 十分な睡眠

体育授業の工夫，長縄大会，ドッジボール大会，東小オリンピック，縦割り班遊びなどの